

1 本年度の重点目標

- ① 授業改善の実践と学習習慣の確立
- ② 進路意識の高揚と進路指導の充実
- ③ 規律ある生活態度の育成と自主性・自律性の伸長
- ④ 安全で安心できる場所としての学校
- ⑤ 組織として機能する学校づくり
- ⑥ 開かれた学校づくりの推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※自己評価結果… A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない
※自己評価、改善策の適切さ… A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である

分評 野 価	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価 結果	改善の方策	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
指学 導 習	① 学力向上の授業について	B	今後も継続的に少人数授業や習熟度別授業・学び直し等を取り入れ、基礎・基本を重視した「生徒が考える・わかる・できる授業」をすべく、授業改善に取り組んでいく。週末課題等も学校全体で継続し、家庭学習の習慣化にも一層努める。	A	B
学校関係者評価委 員会における意見	保護者・生徒・職員ともに前年度より高評価である。学び直しや少人数授業等、分かりやすい授業を実践しながら生徒の意識高揚が図れ、家庭学習の習慣化が身に付けられるような粘り強い指導を今後も継続してほしい。				
生 徒 指 導	① 基本的な生活習慣の指導について	B	毎朝の挨拶運動や容儀指導等に、今後も組織的かつ粘り強く取り組んでいく。	A	B
	② 教育相談について	B	誰でも気軽に相談できる体制づくりをさらに推し進める。	A	B
	③ 部活動について	C	部員数の調整や顧問(教)の配置の見直し、さらには入学期における部活動加入の推進等、活性化を図る。	B	B
	④ 生徒会活動について	B	自主的な活動を促し、前年度各行事の反省点を的確に反映させ、早期に計画立案を行う。	A	B
	⑤ いじめの早期発見について	B	きめ細やかな個別的組織的対応を継続するとともに、全体への働きかけや必要に応じて保護者への情報提供も行う。	A	B
学校関係者評価委 員会における意見	生徒たちがそれぞれの場面で「主体的に活躍できる環境」づくりを推進していただきたい。部活動のあり方については、課題は多いが、登録方法の改善と部員が活動から離れていけないための施策をさらに工夫してもらいたい。いじめ問題については、前年度より改善・向上はしているが、今後も当事者だけでなく生徒全体にも伝わるように指導を広げてほしい。				
指 進 導 路	① 進路目標の指導について	B	今後も、担任や学年と連携しきめ細やかな指導を徹底する。また、進路日よりや保護者(特に3学年)対象の説明会を活用しながら、生徒・保護者の理解を深めたい。	A	B
学校関係者評価委 員会における意見	好調な進路決定状況を持続させるためにも、きめ細かな指導を継続してほしい。進路達成意識の希薄な生徒の増加等、生徒の意識も変容してきているようなので、それに対応した指導も今後工夫して行ってほしい。				
特 学 色 校 あ	① 有意義な学校行事について	B	政公まつりや食楽まつり等の地域貢献活動、OB等リレー講座、地域探訪や職場体験学習等の総合的学習、岩高短歌やみやぎの文学等、独創的な取り組みを、生徒の実態の変化に対応し、改善を加えながら今後も継続して行う。	A	A
	② 特色ある学校づくりについて	A		A	A
学校関係者評価委 員会における意見	全校での短歌づくりの活動や地域と連携した行事への積極的参加など、生徒に自信を持たせる活動を今後も継続してほしい。生徒が本校を卒業して良かったと思えるよう、達成感や自信が持てるように生徒一人ひとりに目をかけてほしい。				
防 災 教 育	① 災害時の避難・連絡について	B	今後も防災家庭用リーフレットや引き渡しカードを全家庭に配付し、eメッセージの全員登録を推進し、緊急時に対応できる態勢づくりに努める。また、授業時以外の防災訓練や『みやぎ防災教育副読本』による学習を継続的系統的に実施し、防災意識と正しい知識の定着を図る。	A	B
学校関係者評価委 員会における意見	防災のための学習や訓練などを今後も定期的に行い、防災意識高揚のための指導を油断なく、地道に継続していただきたい。また、災害時の避難・連絡について、保護者への連絡はある程度できてはいるようだが、生徒への周知徹底に課題が残るので、改善・努力をしてほしい。				
開 校 か れ た	① 学校の情報について	A	eメッセージによる連絡を初め、学校だよりの定期的な発行、学校発行物の全家庭への郵送、ホームページの迅速な情報更新等の取り組みを今後も推進する。	A	A
学校関係者評価委 員会における意見	情報の伝達手段を多様に実施しているのは効果的だが、天候不良による休校等の連絡については、今後も早めのメール送信で対応してほしい。また、HPの情報発信のあり方・内容等について、今後も継続研究をお願いしたい。				
施 備 設 置	① 校舎等の施設設備について	B	施設の老朽化が進み、生徒の安全確保のための修繕等が優先となるが、今後も計画的な施設設備に努力を続けるとともに、急を要する修繕等には速やかに対応していく。	B	B
学校関係者評価委 員会における意見	高等学校は県立学校なので、義務教育のように、施設設備の補修費等が迅速かつ十分に予算化されるというわけにはいかないようである。限られた予算の中で、年々老朽化している本校の施設・設備について今後も計画的に改善してほしい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 生徒指導(いじめ・特別支援対策も含む)の充実	全職員共通理解のもと、学校全体として組織的統一的な生徒指導を実践する。特に、個々の生徒に目を向け、関わりを大切にしながら、学年や発達段階に合わせたきめ細かな指導を実施する。服装や心構え等のマナーアップを促進し、地域から信頼される生徒の育成に力を入れる。また、精神的な安定とより充実した学校生活がいじめ防止に重要な役割を果たすと考え、まずは生徒自身の現在や将来に対する不安を取り除くように全職員が連携して指導にあたる。さらには、教育相談委員会を定期的に開催し、関係者の連携・情報の共有を密にし、より適切で組織的な対応ができる体制を構築する。
② 進路指導の充実	これまで行ってきた進路指導や進路行事(学校・職場見学会、就業体験、進路ガイダンス、適性検査、先輩の話の聞く会など)について、3年間の系統性や総合性を見通した上で整理・再検討し、各学年や発達段階における生徒指導や学習指導とも連携を密にしながら、本校独自の進路指導体制の構築に努める。指導にあたっては、本校生徒の実態や志望・適性等を十分に踏まえ、保護者も含めて必要な情報・知識を適切な時期に与えながら、生徒の主体的で適切な進路選択を促すことができるよう努める。
③ 学習指導の充実	生徒が興味・関心を持てるような教材の工夫に努めることで、「わかる授業」の展開に結びつけ、生徒の学習習慣や学習意識の醸成につなげたい。また、早期の進路目標の明確化による学習意欲の喚起と学力向上に結びつける指導を、教務部や進路指導部、学年が連携して行う。さらに、教員相互に授業を参観・検討し研鑽を深めるとともに、他校の公開授業や校外の研修・研究会にも積極的に参加する。